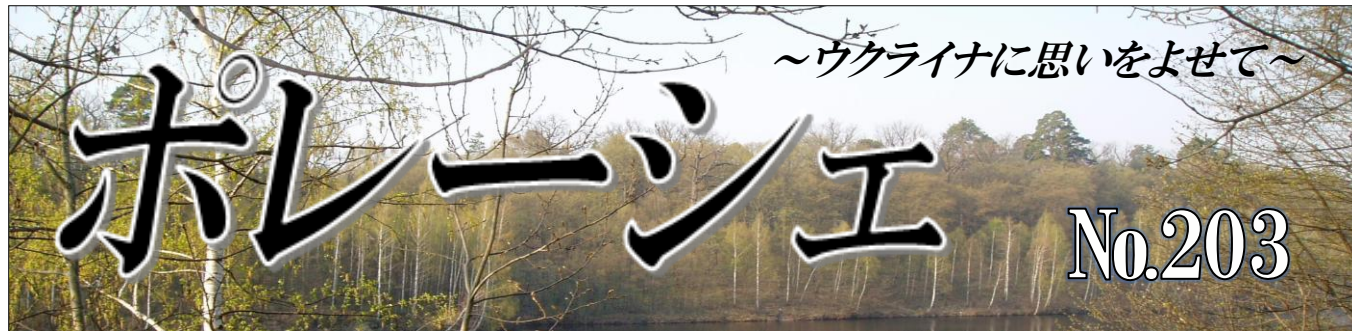


「ポレーシエ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯の呼称です。



2025年2月25日発行 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

ロシアによるウクライナへの 軍事侵攻反対の声明

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻開始から3年、依然軍事侵攻は続き、多くの市民が甚大かつ深刻な被害を受け続けています。私たちは繰り返しロシアによるウクライナへの軍事侵攻に強く抗議し、ロシア軍のウクライナへの攻撃の即時停止およびウクライナからの速やかな撤退を求めます。さらに、一日も早く原発を安全な管理下に戻すことを求めます。

私たちは、1986年旧ソ連で起こったチェルノブイリ原発事故の被災者となったウクライナの人々を30年以上にわたって支援してきました。その原発事故の被災者の方々が、3年の長きに亘り、ロシアの軍事侵攻によって命の危険にさらされ続けています。戦時下にある現地の状況が報道されることは減り、遠く離れた日本にいると、戦時の日常を平穏と勘違いしてしまうこの頃ですが、依然、現地から届くメールを見ていると、戦時の苦しみが続いていることが感じられます。侵攻によって故郷を追われた人々、爆撃による破壊を受けた人々、家族と引き裂かれた人々、空襲警報の中で暮らす人々、受けられるはずの治療を受けられない人々、・・・、挙げ切ることのできない苦しみは戦時の日常に影を落としています。

原発事故に軍事侵攻、不条理な苦しみを受けるのはいつも市民です。一方、不条理な苦しみを生み出すのは為政者です。ウクライナだけでなく、世界の紛争地で数多くの市民が命の危険にさらされながら苦しみ続けています。市民はその命の危険の中で、助け合って必死に命をつなごうとしています。為政者は、大義のために紛争を起こし、市民を犠牲にすることを即刻停止してください。いかなる理由があっても、市民の命と希望を奪う武力行使は許されません。武力行使を即時停止してください。

為政者に求めます。対話と外交によって、核兵器使用と原発事故の危機を回避し、武力行使を停止させ、市民の命を第一とした復興への未来を拓いてください。武力や戦争ではなく、対話と外交による平和構築を強く求めます。為政者は、対立と憎しみを生み出すのではなく、協調と融和を生み出すべきです。憎しみ争う世界とするか、喜び交わる世界とするか、正しい選択を強く求めます。即刻、武力行使を止めてください。そして、復興と平和への道を切り拓いてください。

2025年2月24日

NPO 法人チェルノブイリ救援・中部(日本)

令和7年1月より、この事務所で働くことになりました。野田恭平と申します。11月のポレーシェで、インターン生としての挨拶をしていたので、すでに私のことをご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、改めてご挨拶をさせていただきます。

私は名古屋 NGO センターが主催する、NGO スタッフになりたい人のためのコミュニティカレッジ(通称 N たま)の21期生として参加し、そのプログラムの一つとしてチェルノブイリ救援・中部のインターンとして関わったことが、この団体との出会いになります。

インターンでは主にクリスマスカードキャンペーンを担当し、そのほかミルクキャンペーンの広報や絵画展のお手伝いなど様々なことに携わらせていただきました。仕事をこなすうちに原発やウクライナのことについての私の考えが少しずつ変わっていったのを覚えています。

正直に申しまして事務所に入った当初の私は、原発についてざっくりとした危険なイメージがあるといったものでしかなく、ロシア侵攻によるウクライナでの戦争も二年の月日が流れ、ニュースで取り上げられる機会も減ってしまい、印象も薄くなってしまっていました。そんな中で、クリスマスカードのやりとりや事務所での会話を通して、原発事故で被災した方や戦争で苦しむ方の声、またそういった人達を支えるための多くの方の協力、そういったものを身近で見たことで、身が引き締まる思いを胸に感じました。

また、そういった方々に対して、私自身が少しでもお役に立てることがしたいと思い、事務員の募集に応募して、活動に参加させていただくことになりました。社会経験もほとんどなく、右も左もわからない新米ですが、一日も早く皆様のお役に立てるよう、努力する所存です。今後とも、よろしくお願いいたします。

2024年度クリスマスカードキャンペーンのご報告

今年も皆様のおかげで、沢山のカードを贈ることができました。ウクライナ宛には 1377 枚、福島宛は 361 枚、計 1738 枚のカードが集まりました。改めてみると、とても大きな数で驚いております。

私は皆さんのカードを拝見するたびに、とてもワクワクしておりました。キャラクターが描かれた可愛いもの、励ましや元気づけるメッセージが書いてあるもの、絵画のような美しいイラストが描かれているもの、凄く手の込んだ仕掛けが施されているもの、手芸のような細かい装飾のあるもの…など。これをもらったら、子ども達も喜ぶだろうと思って、送付の作業していました。

皆様が思いを込めて作ったカードを見ていると、とても温かいものを感じます。私が感じたこともきっと、ウクライナの子ども達、福島の子も達にも届いていると思っています。クリスマスは子ども達にとって、とても大切な特別な一日です。そんな素敵な日の子ども達の笑顔のために、ご協力してくださった皆様には、改めて感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。



私たちはウクライナを忘れない

MCU 阪本 友麻

初めまして。名東高校2年生のMCU (Meito Connect Ukraine) です。私たちは、ロシアのウクライナ侵攻の現状は以前と比べ変わっていないのにも関わらず、人々の関心が薄れてきていることを問題ととらえ、ウクライナの平和を願い3人で活動をしています。私たちの行った活動を一部紹介いたします。1つ目は、チェルノブイリ救援・中部さまと繋がりをもたせていただくきっかけとなった街頭募金です。約55,000円の募金が集まり、ウクライナ支援にご活用いただくよう寄付させていただきました。2つ目に“テーブルでつなぐウクライナ”の開催です。ウクライナ料理を囲みながらウクライナ避難民の方と日本の方の交流会を、ウクライナ料理レストラン、ジート様のご協力のもと開催させていただいたイベントです。参加者の皆様に楽しんでいただき、両国の架け橋になれたのではと感じています。

活動の中でウクライナの方と関わる機会があり実際にお話を聞き、私たちが出来ることは何だろうと考え、少しでもウクライナの力になりたいと思い今日まで活動してきました。実際に私たちの活動によりウクライナに関心を持ってくださった方が多くいました。私たちに出来ることは微力ですが、これからもウクライナの平和を願い、今できることを真摯に取り組んでいきます。



キーウ市「未来」タマーラさんからのメール (2024年11月~2025年1月から抜粋)

(11月18日) カードの小包をお待ちします。残念なことに、こちらは間に合いません。子供たちも爆撃で疲れ切り、頻繁に停電があるからです。授業はしばしば地下室で行われます。宿題をするのも間に合わず、勉強をこなし切れないのです。でも新年までにはお送りできると思います。

ご送金ありがとうございます。今、必要なもの、依頼もたくさんあります。次の物品の購入に使わせていただきます。[障害者・子供・前線の兵士への医薬品、包帯等、障害者のための医療物品、子供たちのビタミン剤/国内避難民や貧困家庭のための食品セット/太陽電池付懐中電灯、蓄電器] 日本製の使い捨てカイロ、ろうそくも大変助かります。皆非常に貧窮し、皆が前線に向かっています。一言で言えば、生き延びています。敬意を込めて、タマーラ

(11月29日) 『長い間停電が続き、メールできませんでした。支援金で、私たちは子供たちに新年のプレゼントを、負傷して義手や義足をつけている軍人たちに食品を、また障害者たちに医薬品を購入する予定です。必要なものはとても多く、困っている人たちみんなに少しずつ支援をします。

11月28日、素晴らしいクリスマス・カードの入った2つの小包を受け取りました。今、ウクライナの子供たちにとっては容易ではない時期に、皆さんの励ましは非常に貴重で大事なものです。ウクライナの子供たちにも、祝日がなければなりません。

(12月16日) 『先週、子供たちの新年のお祝いのカードを、「チェルノブイリ救援・中部」宛にお送りしました。航空便で送り、新年までに間に合うのではと期待しています。

(12月25日) 子供たちのクリスマス・カードもありがとうございます。子供たちは喜びました！また、子供のためのクリスマスコンサートのチケットを買うこともできました。お菓子を買って、伝統的なモローズ(厳寒)じいさんや雪娘の芸人来てもらいました。子供たちは、空襲警報が鳴っていたのにもかかわらず、幸せでした。

(1月16日) 私の心臓が負担に耐えられず体調を崩してしまい、治療を受けましたが、やはり入院になりました。今は少しよくなりリモートで仕事をしています。スタッフたちも頑張っています。

ジトーミル市「ホステージ基金」 ドンチェヴァさんのメール (2024年11月～2025年1月から抜粋)

(11月1日)

ドローンが毎晩のように私達を脅かして、午前2時から朝の7～8時まで空襲警報が続きます。地下室に降りていく人、眠り続ける人(例えば私達のように)と様々ですが、空襲警報の音で目覚め、ネットで情報をフォローし、それから寝つきます。今は学校の秋休みなので、子供たちは朝遅くまで寝ています。でもその前は、寝不足のまま学校に行っていたわけです。今のところ、ジトーミルでは破壊も死者もありません。ドローンは軍用飛行場のある街や、ウクライナ西部へ飛んでいます。

こちらでは10℃の気温で、朝晩の冷え込みが始まり、アパートは暖かいのですが、事務所では集中暖房が入りません。ヒーターをつけて、電気代が非常に高く、考えるのも怖いくらいです。

(11月7～15日)

学校ではクリスマス・カード・キャンペーンがたけなわです。いくつかは、もうカードを準備したと知らせてきています。小高の二つの学校宛には、カードを別途お送りできます。昨年、この2校からは箱一杯のカードが届きました。各学校が私たちのキャンペーンに賛同してくれているのはうれしいことです。空襲警報と密な授業のスケジュールにもかかわらず、皆カード作成の時間を見つけています。

(12月7日)

医薬品を事故処理作業員プリピャチ・センターのメンバーに配布しました。12月7日は、元消防署長チュマクさんの一周忌です。彼を偲んで懐かしみましょう。高潔で真面目で、本当に善良な方でした。

(12月19日)

パリでの国際サミットに参加し、日本、トルコ・中国・ポルトガル等の学校とお近づきになりました。オンラインと会場で18ヶ国554名の参加者があり、未来を背負った若い人たちを見るのはうれしいことでした。ウクライナの子供たちにとってよい経験でした。このテーマの続きで2025

年2月にジトーミルの子供達が、福島県郡山市の学校に招聘されます。私も名古屋にも行けるかもしれません。

クリスマス・カードはもう各学校に送り、子供たちは12

月20日から冬休みです。南相馬の幼稚園に私たちのカードをお送りいただきありがとうございます。子供たちが皆、楽しい祝日を迎えますように！

ナロジチ病院はすでに血液凝固分析装置を使っていて、1週間で11人の外来患者、25人の入院患者の検査が行われました。とても使いやすいので、多数の検査を行うことができます。

事故処理作業員の医薬品について。私はジトーミル州非常事態局の医療センターに行きました。皆さんの資金で購入された機器は、すべて稼働しており稼働率も増えています。非常事態局の職員は1,400人、レスキュー隊員養成学校の生徒等も含まれます。しかし、超音波診断器の問題があります。草の根無償支援プログラムで2007年に提供された機器は老朽化し、心エコー検査のグループが必要で、草の根無償支援に次回申請予定だそうです。

(12月24日)

南相馬の幼稚園からのお便りありがとうございます。学校は冬休みなので、生徒たちには先週金曜に渡しました。ホ基金、そして私から、運営委員の皆さんにクリスマスと新年のお祝いを申し上げます。皆さん万事うまくいきますよう！ウクライナに平和が来ますように！ご多幸を祈りつつ ジェーニャ

(1月8～12日)

こちらでは戦況にかんがみて全ての行事は中止となり、12月31日も1月1日も出勤しました。人々は皆鳴りを潜め、この事態が早く終わってほしいという希望を頼りに生きています。



「放射能汚染土壌全国ばらまき」の無謀

もうじき福島原発事故から14年目を迎える。汚染水の海洋放出に続き、今年は更に大きな放射能拡散問題が起こる。政府は昨年12月20日、福島の大熊町、双葉町の中間貯蔵施設の大量の除染土壌の国内処理に関する「全閣僚会議」を開き、2025年夏までにその県外処分に関する工程表を決める、とした。事故直後から除染のために福島県内各地で行った表土剥離土壌は総量1400万 m^3 、東京ドーム11杯分相当の膨大な量になる。事故当時の民主党政権下の環境省は2011年5月に秘密裏に除染土対策会議を開き8000Bq/Kg以下の土壌を2045年3月までに県外に搬出する、と決定して大熊・双葉両町に中間貯蔵施設の設置を認めさせた。その約束を果たすために今後20年間で全国の土木工事などに使う予定である。

8000Bq/Kgの根拠

福島原発事故前の土壌の放射能安全基準は100Bq/Kgだった。これは廃炉などに伴う汚染土壌の処分に関して決めた基準である。しかし8000Bq/Kgという新たな基準に環境省は何の科学的根拠も示していない。大熊町、双葉町を説得するためのその場しのぎの手段だった。除染土壌はフレコンバックに詰められ、県内各地から中間貯蔵施設に運ばれた。これを100Bq/Kg以下に浄化するには2兆9127億円かかるが、8000Bq/Kg以下を外部処分すれば1兆3450億円で済むという。環境省はこれを「経済的・社会的合理性」と主張した。「100Bq/Kg以下は安全に再利用できる基準」「8000Bq/Kg以下は安全に処理するための基準」という2重基準である。事故後14年経ち放射能は半減期で減少したが、それでも現在8000Bq/Kg以下が1070万 m^3 、8000Bq/Kg以上が230万 m^3 で外部搬出量が82%に及ぶ。

外部処理の危険性

政府は8000Bq/Kg以下の土壌を全国の公共土木事業などで利用する。堤防や道路の土木工事で掘り起こした地下に汚染土壌を埋め込み上を非汚染土壌で覆う。これで安全か。問題はいくつもある。中間貯蔵施設から外部の土木工事現場まで運ぶには膨大な数の車両が全国の車道を走り粉塵をまき散らす恐れがある。誰もそれが放射能を含むとは知らずに吸い込む。また作業現場で土木工

事をする作業員や風下の周辺住民も汚染した粉塵を吸い込む。作業現場では土壌が放射能を含む事を周辺住民に知らせる必要がある。埋め立ててしまえば安全とは限らない。場所によっては地下水の汚染も考えなければならない。地震大国の日本では地震によって地盤沈下や液状化、土砂流出、地滑りなどで汚染土壌が露出する危険は避けられない。1年前の能登地震でも明らかになった事実である。このように、原発のない地域でも災害被災地は放射能の被害を免れないが、そもそも時間が経てば放射能が存在する事すら忘れる恐れもある。汚染土壌を埋設した場所に「この地下には放射能がある」と表示すれば人々は対応出来るかもしれないが恐らく表示はしない。更に時間が経てば地下に放射能があるなど知らない世代になりまた掘り起こすかもしれない。このような危険があるので放射能の拡散は避けるべき、というのが放射性物質取り扱いの基本の基である。

無責任のつけを受け入れるべきでない

本来、発生させてはならない放射能汚染土壌を事故で発生させ、住民対策で外部処理を決めるなどという「その場しのぎ対策」で安全は確保出来ない。大熊・双葉の住民はつらいだろうが原発立地の中間貯蔵施設は「永久貯蔵施設」として管理し、国民の被ばくを避けるべきだ。それがチェルノブイリの教訓である。

(1月17日 河田)

【寄付・会員状況のお知らせ】

- ◆10月 寄付/490,707円、会費/18,000円
 - ◆11月 寄付/483,656円、会費/33,000円
 - ◆12月 寄付/876,542円、会費/45,000円
 - ◆1月 寄付/166,411円、会費/6,000円
 - ◆2024年度累計（ウクライナ救援基金を除く）
3,159,122円（1月末）
 - ◆2024年度ウクライナ救援基金 1,595,566円（1月末）
 - ◆ウクライナ救援基金累計 27,536,429円
（2022/3/7～2025/1/31）
 - ◆会員数 176名
 - ◆ポーシェ読者数 681名
- ～心温まるご支援をありがとうございました～

【寄付のお願い】

- ◆銀行振込先
三菱UFJ銀行 高畑支店 普通 1682863
 - ◆郵便振替 00880-7-108610
〈口座名義〉
特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部
- *クレジットカードでも受け付けております
（ページ下のQRコードから寄付ページへアクセス！）
- ※手書き領収書の郵送が必要な方はご連絡ください

当団体は「認定特定非営利活動法人」ではございませんので、ご寄附は税額控除の対象にはなりません。ご了承のほどお願いいたします。

●1月29日に、ご寄付を頂いた真如苑様ご来訪。昨年ご支援金で、ジューズ州各地域で実施した以下の活動について報告しました。

- ①事故処理作業員団体「プリピャチ・センター」他への医薬品配布
- ②ナロジチ一次医療・保健センターの感染症病室の改修
- ③ナロジチ保健センターへの医薬品提供
- ④「戦時下のウクライナの子供達の見た絵画展」参加者への報奨金
- ⑤侵攻のあった北部ノーヴァ・ラドチャ村学校の子供達の遠足費用の提供

そして、最近のウクライナ情勢や人々の生活、子供達の学校生活等についても、意見交換しました。

●1月31日、20時からアユス（国際仏教協力ネットワーク）の会員向けにチェルノブイリ救済のこれまでの活動と戦争の現状などについてZOOMで講演させていただきました（河田）。

アユスには戦争が始まった当初から支援を頂いています。

●福島県立郡山高校、NPO法人ROJE、京都教育大学伊藤駿講師の企画「ウクライナの高校生を災禍に関するスタディーツアー」でドンチェヴァさん来日。事務所にみえたドンチェヴァさんの懐かしい明るい声が、ロシア侵攻直後のポーシェ記事を目にすると何度も目頭を拭いていた。その後、今後の支援について意見交換。2025年度の活動に反映される。



遠足を満喫するノーヴァ・ラドチャ村学校の子供達



ドンチェヴァさんとの意見交換 @事務所

機関紙『ポーシェ』を定期購読しませんか！

定期購読は会員の方でなくてもお申し込みいただけます。私たちの活動報告はもちろんのこと、ウクライナの支援団体から直接送られてくる現地や市民の様子、国内外の原発の近況など、マスコミやSNSとは異なる視点でとらえた情報をお届けしています。お申し込みは事務局まで。お気軽にお問い合わせ下さい。



発行 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目11-33 ST PLAZA TSURUMAI 本館5B

TEL&FAX 052-228-6813（月・水・金 10:00～15:00）

E-mail chqchubu@muc.biglobe.ne.jp URL <http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

印刷 エープリント

